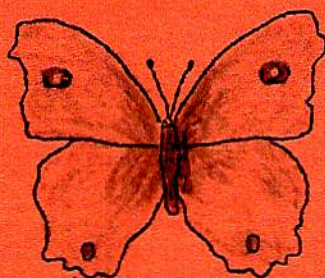


INSECTS OF TSUSHIMA

canidia



Melanitis leda LINNAEUS

NO. II

対馬昆虫愛好会

対馬高校生物クラブ

対馬の蝶三種 木三 憲

(1) 対馬厳原でキバナセセリ採集

◎ *Bibasis aquilina chrysaeglia* (Butler 1881)
・キバナセセリ

本種を厳原町宮谷の自宅で採集したので報告する。

◀Date▶

・ 5 — VI — 1973 厳原町宮谷 (1♀) col. 杉 憲

過去対馬では、浜田・境の両氏により各1個体が採集されているにすぎない。過去の採集Dateは下記のとおりである。

◀Date▶

・ 13 — VI — 1955 厳原町 (1♀) col. 浜田明天
・ 20 — VI — 1967 厳原町宮谷 (1♂) col. 境 良朗

今回の採集は15日夕刻に家の中に採集したものを採ったもので、また過去のDateはいずれも家の中を採っており、対馬産キバナセセリはすべて家の中を採集されているという珍しい記録に残っている。

また本種の九州における分布をみると、祖母山岳などの高所にしか見られず低地では姿を見せないものである。にもかかわらず対馬ではすべて平地を採集しており非常に興味深いものである。最後に対馬での野外における採集に期待したい。

◀写真も参照▶

(2) スジクロシロチョウを採る

◎ *Pieris melete* Menetries, 1857
・スジクロシロチョウ

本種を厳原町宮谷で採集したので報告する。

◀Date▶

・ 5 — V — 1973 厳原町宮谷 (春型1♀) col. 杉 憲
・ 27 — VIII — 1973 厳原町宮谷 (夏型1♂) col. 杉 憲

過去のDateをふりかえてみると

《Date》

- Dixey, F.A. (1932) The Plume-Scales of the pierinae, Trans. Ent. Soc. London, 80, Part 1, P57~75 "Pieris melete Tsu-Shima. Is." 含の発香鱗を图示(2枚)

これが対馬で最初の記録である。(jubaをmeleteの亜種としない場合)
その後のDateとして下記のものがある。

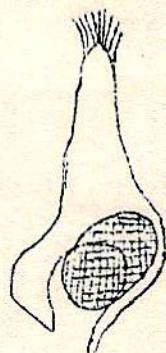
- 12—VIII—1954 嵯原町清水山(1♀) col. 深田明天
- 10—VI—1958 嵯原町田割(1含) col. 植村芳布
- 23—VI—1958 上対馬町大塚(1含) col. 西村峰男

対馬における代表的シロチョウは、モンシロチョウ(*Pieris rapae curcivora*)、スジタロシチョウ(*Pieris melete Menetries*, 1857)、タイワンモンシロチョウ(*Pieris canidia juba Fruhtr* 1910)、の3種であるが現在はrapaeが平地にばかり、jubaならびにmeleteはrapaeによって山地部に追い出され、さらにmeleteはjubaによって林縁の暗い所に追い込まれている。こうしてmeleteは残存しているものの個体数が少なく、対馬のシロチョウ科としては異も注目すべき種ではないかと思う。最後に本文をまとめるにあたって、文献を御協力いただいた江原正徳氏には深く感謝するものである。

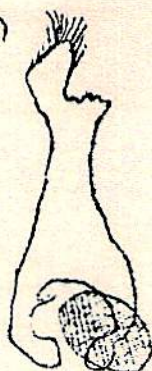
◀写真No.2・3参照▶

対馬産 melete の発香鱗

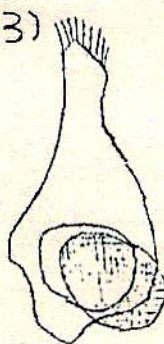
(Fig1)



(Fig2)



(Fig3)



- 27—VII—1973 嵯原町宮谷 col. 形 寛

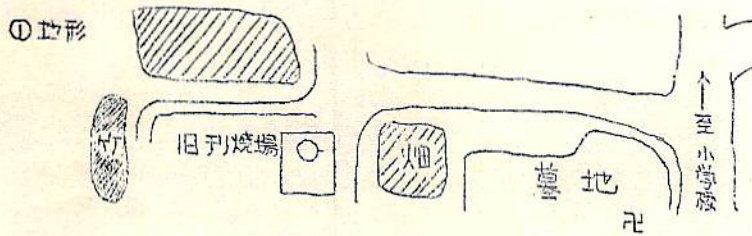
※尚、Fig3の場合は一種の奇形ではないかと思われる。

分布資料

土屋 良朗

少し古く低産加齢原における分布資料を添える。

(1) 手ノ焼場周辺 10-X-1968 ① P.m. 2:00~2:30



- ① 採集記録
- *Pieris rapae curcivora* 10-X-1968 (1♂)
モンシロチョウ col. 土屋 良朗
 - *Papilio xuthus* Linne, 1767 10-X-1968 (1♀)
アゲハ col. 土屋 良朗

- ② 目撃記録
- ヤマトシジミ (多数) • クロソバメシジミ (1ex) • ウラナミシジミ (3ex) • ウラキナシジミ (1♀) • ツマクロヒョウモン (1♂) • クロヒカゲ (1♂・1♀) • モンシロチョウ (2♂) • ウラナミジヤノメ (1ex)。

(2) 後山と尾の周辺 14-X-1968 ② A.m. 10:00~11:30

- ① 採集記録
- *Caretis acuta paracuta* de Niceville, 1909 14-X-1968 (1♂・1♀)
ウラギンシジミ col. 土屋 良朗
 - *Parnara guttata* (Bremer et Grey, 1853) 14-X-1968 (1ex)
イチモンシセセリ col. 土屋 良朗
 - *Eurema hecabe mandarina* (de Forzza, 1868) 14-X-1968 (2♂)
キチョウ col. 土屋 良朗
 - *Argynnis pnydamene midas* Butler, 1866 14-X-1968 (1♀)
クモカタバヒョウモン col. 土屋 良朗

- ② 目撃記録
- モンシロチョウ (3ex) • ムラサキシジミ (4~5ex) • アゲハ (1ex) • ヌスカクロヒョウモン (2♀) • クモカタバヒョウモン (3~4ex) • ツマクロヒョウモン (1♂) • アノタテ (1ex) • ヒメアノタテ (1ex) • ウラナミシジミ (未確認) • ギンマコメ (1ex) • ナツアカネの産卵。

対馬の蝶(2)※

— 対馬産三ヤマカラスアゲハ(春型) の裏面白帯異常型について —

土境 良朗

一般に本種 (*Papilio maackii tutanus* Fenton) とカラスアゲハの区別点として、前期裏面白帯の形状の相異、および後期裏面白帯の有無があげられる。すなわち、簡単にいえば、本種では前期裏面の白帯の幅がほぼ同じであるがカラスアゲハでは上の方に向かって広がっていること、また後期裏面の白帯が本種では表れる傾向があり、カラスアゲハでは全く認められぬことなどである。(ただし本土産のものにおいて)

しかし、対馬で採集された本種春型において上記の区別点に矛盾する白帯の出現した個体を見出したので、参考までに報告する。

◀Date ▶ No.1

・5—Ⅳ—1967 後山山頂(1令) col. 境 良朗

この個体は、前期裏面においては白帯は中室まで達し、上方に向かって幅が広がり、加はり発達している。これはカラスアゲハの白帯の表れ方よりも、ほぼ一層顕著である。後期裏面においては普通のカラスアゲハの特徴を示す白帯が表れている。また後期型外縁にある赤色の弦月線がいくぶん発達している。

この個体が三ヤマカラスアゲハであろうことは間違いないであろうが、少なくとも、対馬産春型のものでは、このような傾向をもった個体が多く、一般にいわれる区別点とは一致しないものが多い。最近のものでは(1—Ⅳ—1968 後山山頂(1令) col. 境 良朗)も、同一傾向を示している。しかし現状では春型の個体は数加多くなく、安易な結論は出せない。

◀写真No.4参照▶

◀Date ▶ No.2

・24—Ⅳ—1970 後山山頂(1令) col. 杉 憲

本種においては、後期裏面白帯は暖地性のものでは消失する傾向が強く、夏型においてはこれが著しい。しかし対馬産春型においてはこの傾向が表れることはあるが完全に消失することはほとんどなく、ただし例、上記の記録があるにすぎない。ただし消失しかかった個体は見られる。夏型では完全に消失し、例外は現在まで採集されたことがない。

対馬産三ヤマカラスは、本土産のものに比べて若干の差があるように思われるが今後の調査研究に期待したい。

最後に採集してくれた対馬高森庄物部の杉 憲君にお礼申し上げます。

※対馬の蝶(1)は"こがねむし", 9巻1号及びPを参照されたい。

INSECTS' LIFE . IN . TSUSHIMA (1)

(1) 対馬産クロヒカゲの垂直分布 (*Lethe diana*)

対馬産クロヒカゲの垂直分布をみると、本土産のそれと大きな違いがある。と言うのは本土ではクロヒカゲは標高400m以上の山地帯に見られるのだが、対馬では海岸に面した等もらにも生息しているのである。俗地では果実に、また湿地では獣のフンに集まっているのが観察されている。

この事実が対馬の以前の姿を知る手がかりになるかなと思う。

————Y.SAKAI

(2) チャイロオセセリ(異名オセセリ) (*Pelopidas mathias oberthuri*)

本年度は例年に比べて、チャイロオセセリの数がかかり多いように思われる。例年対馬におけるチャイロオセセリとイテモンジセセリの数は、4:5くらいでありイテモンジセセリが大半を占めていたのである。今後の発生に気を付けてみたい。

————ASUGI

(3) シロシマエドリス(シロシマエドリス)の早期発生 (*Chrysozephyrus ataxus* DOUBLEDAY et HEWITSON)

最近には→で送がついたことだが、対馬産シリシマエドリス(シロシマエドリス)の発生が他の地域に比べて早いのでここに報告する。(ただし有明産のものについて)

二三年前からであるが7月中旬に登ってもオス・メスが混雑している状態であり、今年は無明産の産卵が7月15日に登ったところ、すでにオス・メスが混雑しており、数的にはオスがやや多いくらいであったと見てとれた。その年の発生量のえいぎょうもあろうがここ二三年つづけてであるので少々おかしいのではなかろうか。今年の採集データは下記の通りである。

◀Date▶

・15—Ⅷ—1973 萩原即有明山(1919) col. 杉 実

最近、有明の産卵が玉やみに採集され減少しているのを、唐然保子のごときも考へ、産卵を大切にしたいものである。

————Y.SAKAI

1972年ホシボシマユウの記録

境 良朗・斎藤修二

本種 (*Eurema brigitta* CRAMER) は対馬において1970年巨勢地区で大量発生しており、念草のワウケツメイから幼虫も採集された。成虫中の個体も観察された。しかし翌年1971年には、まったく確認できずその年限りで絶滅したと思われる。

筆者らは昨年度、巨勢湖直の折、本種を採集したので報告する。

《Date》

- ・26—VIII—1972 巨勢崎 (1♂) col. 境 良朗
- ・26—VIII—1972 巨勢西端 (1♂) col. 斎藤修二

尚、巨勢湖で採集した個体は非常に新鮮であった。 ▲写真No.6参照▲

対馬における、ウシロコノマユウの発生

斎藤修二

ウシロコノマユウ (*Melanitis leda* LINNAEUS) は夏から秋にかけて対馬で採集される記録の中ではむしろノーマルな部類であるが現在まで種名提示者があまりないのである。例年対馬では何頭かの成虫が採集されているが、今年は熊原において、例年に倍く多くの個体を採集・目撃したので報告する。

《Date》

- ・17—VII—1973 熊原町宮谷 (1♂) col. 斎藤修二
- ・22—VII—1973 熊原町宮谷 (1♀) col. 斎藤修二
- ・3—VIII—1973 熊原町宮谷 (1♂) col. 杉 寛
- ・4—VIII—1973 熊原町宮谷 (1♀) col. 杉 寛
- ・6—VIII—1973 熊原町宮谷 (1♀) col. 杉 寛
- ・10—VIII—1973 熊原町宮谷 (1♂) col. 斎藤修二
- ・12—VIII—1973 熊原町宮谷 (1♀) col. 杉 寛

本種は夕露水時になると路上などにある葉の裏などで吸蜜している。路上を活動にとびまわっていることが多い。尚、今回の採集にはこからで発生したと思われる新鮮な個体も含まれている。

最後に本文を書くにあたって協力してくれた対馬高等学校植物部の杉 寛君にお礼申しあげる。

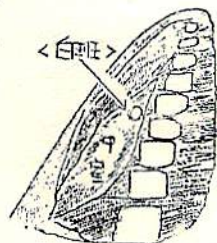
▲写真No.7~10参照▲

(1) アオスミアケル(異常型の記録)

斎藤修二

少々古くなるが、標本箱の中から次のような斑紋異変個体を見つけたいので報告する。この個体は1971年7月(日時不明)に岐阜県宮谷で採集したアオスミアケルを右前翅中室前端に一個の白斑が出ているものである。

このような個体は、他地域でもかなり採集されているようではあるが、対馬からのこのようにはっきりしたデータはないので今回、文献として提出した次第である。



▲写真No.11参照▲

(2) コマタラテヨウ(異常型の記録)

斎藤修二

こちらでもかなり古い記録ではあるが、標本箱の中から下記のようなコマタラテヨウの異常個体を発見したのでここに報告する。

この個体は表裏両面とも激しい白化型を示しており、(写真は裏面のみ)別種ではないかと思えるほどである。元来、対馬産コマタラテヨウ巻型は、他の地域のもの比べて白化の度合はすごいものであるが、これほどのものは私も初めてである。朝鮮方面にはかなりの白化型がみられており、このあたりもやはり大陸の影響をうけているようである。

なお、この個体も1969年5月に岐阜県三ノ丸で採れているとあるだけなくゆい日時はわかっていない。

▲写真No.12参照▲

▶ 第3号予告 ▶

Canidia 編集部・SUGI & SITO

- ・次回第3号は対馬の甲虫類をはじめ長崎県立教員江藤正都氏の夏季対馬採集記など多種多様な記事のもと、11月下旬に発刊の予定。季刊、Canidia、第3号、もうしばらくお待ち下さい。

— 参考文献 — 覧 —

・長崎県の蝶類 山口鉄夫・浦田明天

- ・キバネセセリ
- ・アオスジアゲハ
- ・ゴマタラ子ヨウ
- ・ウスイロコノマテヨウ
- ・スジクロシロキョウ
- ・ミヤマカラスアゲハ

・こがねむし 浦田明天

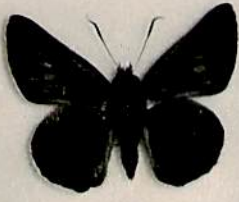
- ・キバネセセリ

文献は未整理のため、これだけにとどめました。深くおわびいたします。 越前館

— 写真解説 —

カ×コ — 川辺和哉

No.1.	キバネセセリ	15-Ⅷ-1973	嵯原町宮谷	col.	杉	寛
No.2.	スジクロシロキョウ	5-Ⅶ-1973	嵯原町宮谷	Col.	杉	寛
No.3.	スジクロシロキョウ	27-Ⅷ-1973	嵯原町宮谷	col.	杉	寛
No.4.	ミヤマカラスアゲハ	5-Ⅳ-1967	嵯原町後山	Col.	境	良訓
No.5.	ミヤマカラスアゲハ	24-Ⅳ-1970	嵯原町後山	Col.	杉	寛
No.6.	ホシボシキテヨウ	26-Ⅷ-1972	豆蔵西浦	Col.	斎藤修二	
No.7.	ウスイロコノマテヨウ	10-Ⅷ-1973	嵯原町宮谷	col.	斎藤修二	
No.8.	ウスイロコノマテヨウ	3-Ⅷ-1973	嵯原町宮谷	col.	杉	寛
No.9.	ウスイロコノマテヨウ	6-Ⅷ-1973	嵯原町宮谷	col.	杉	寛
No.10.	ウスイロコノマテヨウ	4-Ⅷ-1973	嵯原町宮谷	col.	杉	寛
No.11.	アオスジアゲハ	?-Ⅷ-1971	嵯原町宮谷	col.	斎藤修二	
No.12.	ゴマタラ子ヨウ	?-Ⅶ-1969	嵯原三の丸	col.	斎藤修二	



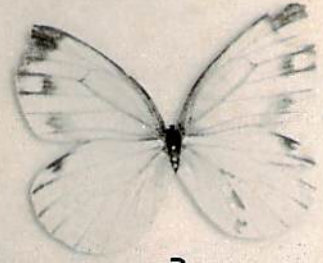
1



2



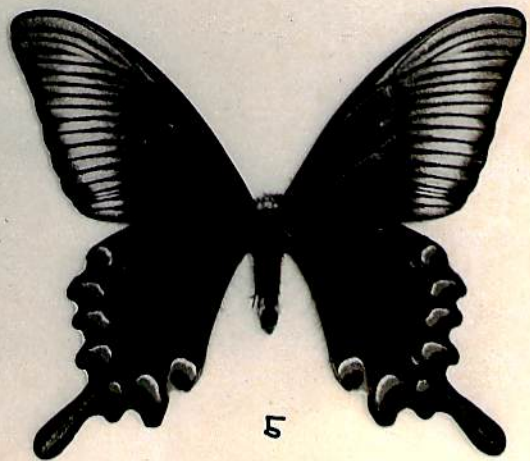
6



3



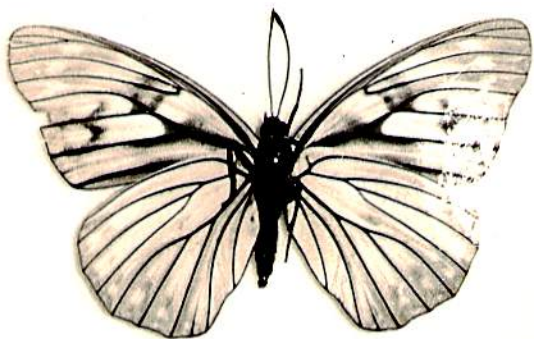
4



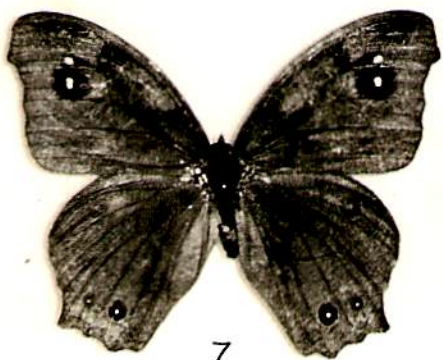
5



11



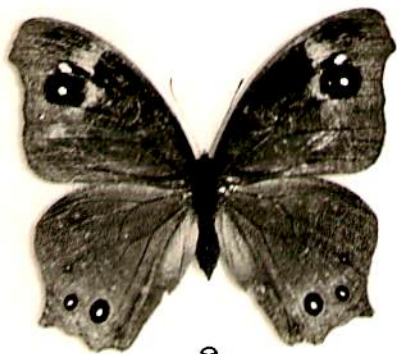
12



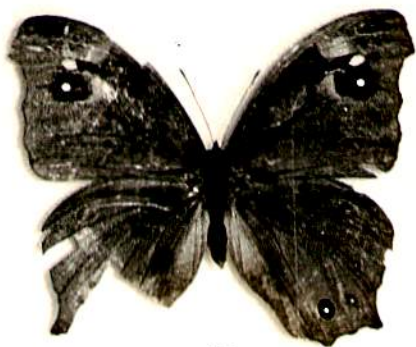
7



8



9



10

canidia No.2 1973年 8月

採集・印刷——ASUGI

発行責任者——SSAITO

本部 対馬高校生物部